



力を合わせて温もりを

それぞれの復興へ

「東日本大震災支援を」

多くの区民と力を合わせて」

3月11日（金）午後2時46分、変わってしまった人生。福島県では未だに子供達は屋外で遊ぶことも出来ない状況です。また、宮城県の仮設住宅は石油ストーブが入っておらず、エアコンだけの厳しい冬を迎えています。

「募金者から、ありがとう」

荒川社協では、被災地への復興を目指し、震災の翌週の3月18～25日に区内主要駅や商店街で募金活動を始めました。雨が降り続き寒かった中で、ありがとうの言葉と133万の募金が寄せられました。

また、区民の中から積極的な動きが始め、東京荒川ライオンズクラブの募金活動では86万円、その後も続々と募金が区民から寄せられ、12月初めまでに281万円の募金が集まりました。その一部は、荒川区の友好都市である釜石市の社会福祉協議会・商店会連合会・少年スポーツ団体へも寄付されました。

「被災地の必要に合わせて」

直接、荒川社協の藤田事務局長が向き現地の方々に会い、必要とされている人手、物資を確認してきました。釜石市、

福島等被災地への荒川社協の職員の派遣は今も続いています。

季節の移り変わり、状況の変化で支援内容が変わってきました。4月9日は缶詰・下着・靴下・歯ブラシ等を段ボール箱で8個を、4月26日には現地の学校再開にあわせ、雨具・文具・児童書・野球道具等段ボール箱480個と、区内の肉卸業者から寄付を受けた牛肉100kgを送りました。大きな避難所には大手の企業による支援が入りますが、小さな避難所では缶詰とおにぎり、パンといった食料しか入手できません。

それではということと、5月25日にホッケ開き・厚焼き玉子・すき焼き用牛肉・野菜・わかめ等段ボール201個を、その後も6月10日には、食器、スニーカー・バック等段ボール12個、7月29日にリサイクル自転車50台、8月12日に殺虫スプレー300缶を支援寄付金での購入や物資寄付により、釜石市に届けました。また最近、PTAから寄付を受けたランドセル47個を釜石市の教育委員会に送りました。



「荒川区内避難者は、44世帯120名」

（12月12日現在、荒川社協が把握している人数）避難者のうち福島県からの方が32世帯、その他に宮城県・岩手県・茨城県から荒川区に避難されています。避難者の方々は、乳幼児を連れた親子から高齢の方

まで、都営住宅・都民住宅、親戚宅や民間のアパートなどへそれぞれ避難されています。区民の方々からは是非応援をしたいとの申し出が多数寄せられ、東京めぐりバスハイク、盆踊り大会、ダンスショーなどの催し物への招待が実現しました。

11月18日に開かれた避難者の方達の交流会では福島第一原発事故による強制避難で離れ離れになった高齢の女性とご近所同士の夫婦が8ヶ月ぶりに再会し、互いの無事を喜びあう光景もありました。また、避難後、3人の赤ちゃんが生まれたそうです。

郷里への思い、これからの生活の不安を抱えて荒川区で暮らす人々がいます。区民の方々から様々な生活物資が寄せられ、生活応援市が二回開かれ、段ボール箱266個にもなる物資が配布されました。大震災から9カ月が経過し、被災者支援の思いが風化しつつあるとも言われています。荒川社協では、「わたしたちができることは、これからもある」という言葉を、行動指針に掲げています。私たち一人ひとりができることで、支援してみませんか。

◇物資（米・調味料・嗜好品・洗剤・電気製品・新品衣料品・新品寝具・トイレトペーパー・テッシュペーパー）支援金受付

〒116-0003 南千住1-13-20

イトーヨーカドー三ノ輪店 前3階

TEL (3802) 3338

FAX (3802) 3831

【荒川区社会福祉協議会】